

# ユーザーの視点から見た 自動車リサイクル制度

2020年9月25日

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・

コンサルタント・相談員協会 (NACS)

環境委員会 根村玲子

# 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会(NACS)について

**N**IPPON **A**SSOCIATION of **C**ONSUMER **S**PECIALISTS

<http://www.nacs.or.jp/>

■ 1988年6月発足

■ 全国7支部 約2,500名 (2020年6月現在)

- 消費生活アドバイザー/消費生活コンサルタント/消費生活相談員の有志
- 消費者と企業・行政等との架け橋として、消費者視点を生かし企業や行政等への提言を行う
- 消費者からの消費者トラブルの相談等に迅速かつ適切に対応する

■ 環境委員会

資源の採取から廃棄・リサイクルにわたるライフサイクル全体「商品の一生」を通して、人と自然に配慮された商品（モノ）とサービスとが評価される社会づくりに貢献すべく活動している。

# 目次

1. 「あるべき姿」の実現に向けた具体的取り組みに関して	
(1) 環境配慮設計や再資源活用による3Rの推進・質の向上	4
(2) リユース・リビルト部品の利用について	5
(3) ユーザーに対する情報発信の取り組みについて	6
2. 今後の議論に向けた検討の観点に関して	
(1) 制度の安定化・効率化に向けて	7
(2) 再資源化の高度化への期待について	8
(3) 次世代自動車への期待について	9
3. 補足	10

# 1. (1) 環境配慮設計や再資源活用による 3Rの推進・質の向上

## ■ 環境配慮設計や再資源利用の進んだ自動車の選択について

- 環境配慮設計に取り組んでいる新規車種があることは、カタログや各社HPの記載情報を詳しく見ればわかる。しかし、購入時の選択に活用できるようなユーザーに寄り添った説明になっているとは言い難い。
- 「環境」に関するメーカーからのメッセージには、消費者がもともと関心の高い燃費やGHGガス削減等に加え、3Rの推進・質の向上にも目を向けるような分かりやすい内容が必要である。

## (2) リユース・リビルト部品の利用について

### ■ リサイクル部品を選択しやすい状況のために

- 修理依頼時、ユーザーは、安全性や経済性、効果など総合的に判断して、最適な修理を提案してくれることを期待しているが、情報の格差もあり、自身からリサイクル部品の使用を申し出ることは難しい。(アンケート※<sup>1</sup>)
- アンケート※<sup>2</sup>等より見えてくるユーザーの不安：
  - リサイクル部品を使用した場合の自動車の安全性、品質、保証
  - どういう自動車から取った部品か (traceability)
- リサイクル部品が信頼を得ることがまず必要である。
  - 部品の共通情報項目の規格化を進めるなど

## (3) ユーザーに対する情報発信の取り組みについて

### ■ 自動車リサイクル制度について伝えるには

- 業者まで、運転して行く（＝走行可能）ことや買替えでは、自動車の下取りが行われることも多いため一般ユーザーが、「使用済車にした」という意識を持つことはあまり多くない。
- 一般ユーザーへの説明は、購入時点が効果的（アンケート※<sup>3</sup>）  
実際にはどれくらい行われているのか？
- JARCのCMやトヨタのリサイクルのユーチューブでの発信等は有効

## 2. (1) 制度の安定化・効率化に向けて

- 情報システムの効率化への期待
  
- 逆有償化を防ぐための取り組みへの期待
  - ・ 自然災害による被災自動車への対応（セーフティネット機能）
  - ・ 離島支援等

## (2) 再資源化の高度化への期待について

### ■ ASRの再資源化について

- ・ 廃プラスチックの国内処理増加に伴い、ASRの再資源化施設の受け入れがひっ迫している状況の改善は、すぐには難しいのではないか。その対応策の検討が必要と思われる。
- ・ プラスチックやガラスなどの素材では、経済的にも適正な技術が確立され、破碎・選別の精度を上げるために最適なタイミングで取り外され、マテリアルリサイクルが進むことを期待する。



### (3) 次世代自動車への期待について

- ・次世代自動車の普及に伴い、新しい部品・素材のリサイクルが期待されている。

2030年次世代自動車普及目標を考えると、リサイクルの技術整備に時間的余裕はあまりなく、よりスピードをアップすることが望ましい。

## 補足

アンケートとは、

2018年5月NACS環境委員会による

### 「消費者の自動車リサイクルに関する認識度調査」

調査方法：インターネット調査

調査回収数　：1,625サンプル

(2017年度 J-FAR 助成事業「自動車リサイクルに関する消費者への周知活動」にて実施)

アンケート※1

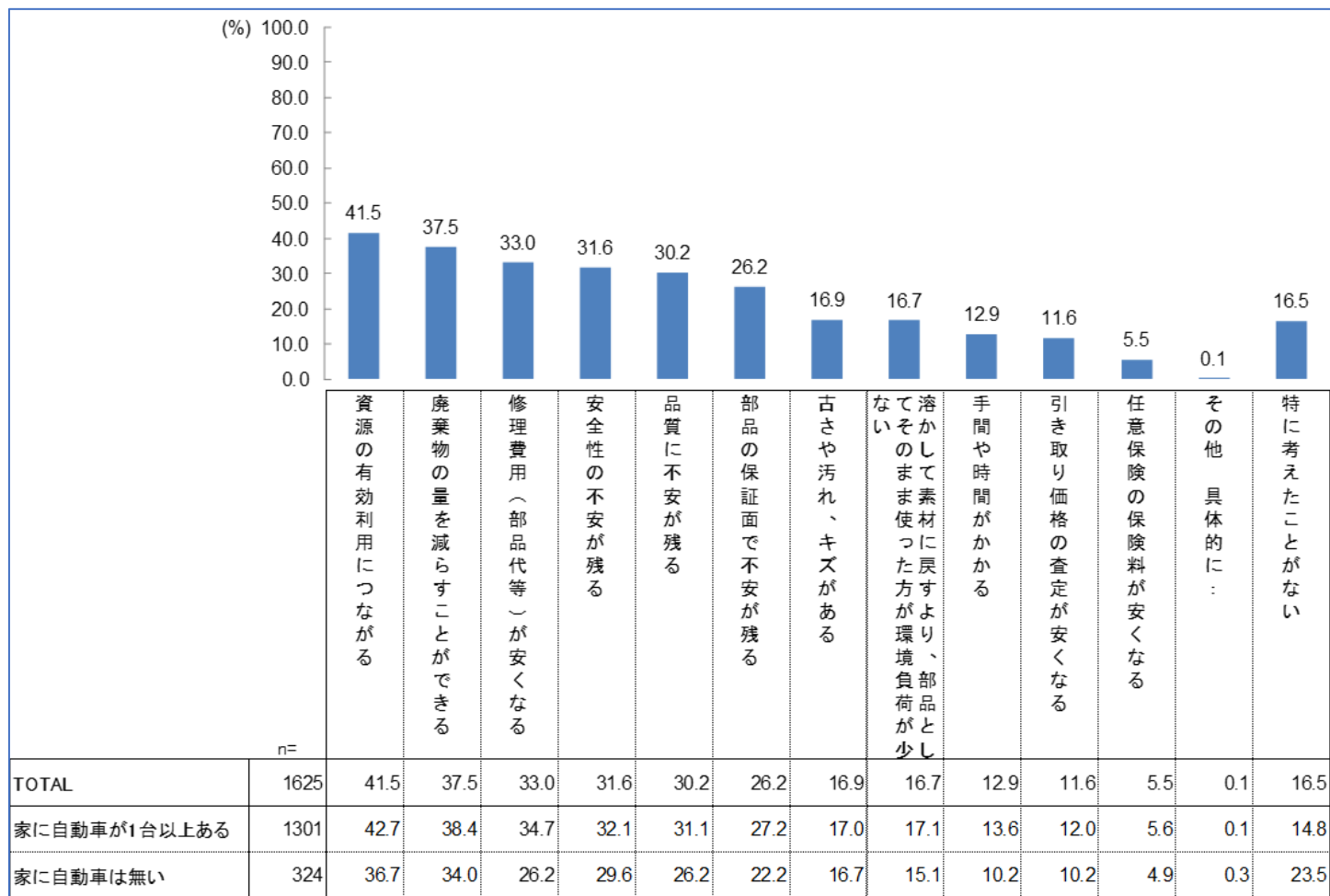
Q14：あなたは、自動車修理の際、リユース部品やリビルト部品を選べることを知っていますか。

A14：「家に自動車が1台以上ある」場合でも「知っている」は、20.7%

「家に自動車は無い」場合は、9.6%

Q15：自動車修理時にリユース部品やリビルト部品を利用することについてあなたのお考えをお聞かせください。

A15：安全性、品質、保証面で不安が残ると考えて人は各3割ほど



Q20：あなたは、自動車リサイクルに関する情報は、どこで提供されるとよいと思いますか

A20：テレビ、カーディーラー・自動車販売店、インターネットの順

